The Partner for Success

第45期
中間ビジネスレポート

2020年4月1日～2020年9月30日

株式会社 図研

連結財務ハイライト

	当第2四半期 [2020年4月 1日から 2020年9月30日まで]	前第2四半期 [2019年4月 1日から 2019年9月30日まで]	前期 [2019年4月 1日から 2020年3月31日まで]
売上高	**13,071**	13,705	29,296
経常利益	**1,068**	1,826	3,486
親会社株主に帰属する純利益	**702**	1,419	2,595
1株当たり純利益	**30円22銭**	61円4銭	111円65銭
総資産	**52,462**	48,440	51,445
純資産	**36,646**	34,493	35,013
1株当たり純資産	**1,562円54銭**	1,465円39銭	1,487円50銭

(単位:百万円)

(注) 1株当たり純利益は期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産は期末発行済株式総数により算出しています。
なお、自己株式数は控除しています。

INDEX

連結財務ハイライト …… 1
株主の皆さまへ …… 2
特集 お客さまとの"絆"を深める、図研ならではの取組み
会員制サイト「ZUKEN digital」サービス開始 …… 3
ZUKEN digital SESSIONS 2020 Report …… 5
四半期連結財務諸表 …… 7
Group Zuken Close Up
ニューノーマルに対応した、
図研グループ各社の注目のソリューションをご紹介! …… 9
インフォメーション …… 10

株主の皆さまへ

今だからこそ求められる、デジタル化を駆使した図研ならではのITソリューションの提供を推進します。

株主の皆さまには、平素のご厚情に心より御礼申し上げます。第45期中間ビジネスレポートをお届けするにあたり、業績および業務活動に関してご報告いたします。

業績について

当中間期は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響によって世界経済が停滞し、期後半に一部で持ち直しの兆しがみられたものの、総じて厳しい状況で推移しました。当社グループの主要なお客さまであるエレクトロニクス製造業、自動車関連・産業機器製造業では、IT投資への意欲は高い状態が続いているものの、先行きの不透明感から設備投資全体では慎重な姿勢が続きました。こうした中、当中間期の売上高は130億7千1百万円(前年同期比4.6%減)と、過去最高を記録した前年同期に次ぐ結果となりました。これは、ネットワーク関連製品を中心にITソリューションの売上が堅調に推移したことによるものです。受注残高につきましては、IT投資を進める企業からの受注が着実に積み上がり、第二四半期末としては過去最高となっています。

利益面は、売上高の減少や新製品開発などを進めていることから、経常利益10億6千8百万円(前年同期比41.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益7億2百万円(前年同期比50.5%減)となりました。

なお、通期業績予想は、すでに公表している内容から変更なく、売上高290億円、経常利益28億円、親会社株主に帰属する当期純利益17億5千万円を見込んでいます。

今後の取組みについて

新型コロナウイルス感染症の影響により、モノづくりのあり方、そして、ビジネス・コミュニケーションのスタイルが、大きく変貌しつつあります。この流れは、これまでに当社グループが進めてきたITソリューションのニーズを一層高めています。今後も、当社ならではの「DX(デジタルトランスフォーメーション)」を推進し、各ソリューションの開発、お客さまとの新たなコミュニケーション手法の確立などに努めてまいります。

株主の皆さまには、今後も一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
勝部 迅也

特集　お客さまとの“絆”を深める、図研ならではの取組み

会員制サイト「ZUKEN digital」サービス開始

デジタル技術を活用しビジネスを変革する「DX(デジタルトランスフォーメーション)」の流れは、新型コロナウィルスの感染拡大により加速され、社会全体でニューノーマル(新常態)への対応が求められています。これまでのように対面のコミュニケーションが難しくなる中で、お客さまとのエンゲージメント向上を図るため、「ZUKEN digital」を10月12日に開設し、サービス提供を開始しました。

コロナ禍が加速した新たなコミュニケーションのあり方

図研の強さは、営業がお客さまとの深いコミュニケーションでニーズを的確に把握し、最適なソリューションを提案してきたことにあります。そして今、AIや通信技術などテクノロジーの目覚ましい進化は、モノづくりに関わるお客さまの課題を一層複雑多岐にし、その内容を理解するにはより深いコミュニケーションが必要になってきています。しかしながら、ひとりの営業がお客さまの課題解決に費やせる物理的時間は変わりません。加えてコロナ禍により、対面で関わりを深めることも難しくなってきました。こうした中でも、個々のお客さまとのコミュニケーションを深め、ご要望に応えた提案を行うために立ち上げたのが「ZUKEN digital」です。欧米ではお客さまや見込み顧客のステータスに応じて、自動的に情報提供するマーケティングオートメーションというデジタルな営業手法が一般化されていますが、「ZUKEN digital」は、そうした自動化にとどまらず、個々のお客さまの状況を担当者自身が把握して、個別に最適化した情報を提供するプラットフォームを目指しました。1対1のエンゲージメント向上を実現するこの仕組みは、業界でも前例がありません。

より多くの顧客に質の高い情報を提供

「ZUKEN digital」サイトで会員登録すると、お客さま個々に専用のページ(マイページ)が開設されます。ここにはまず、お客さまの情報や参照履歴などから、興味のありそうなセミナー情報や事例資料、お役立ちコンテンツを紹介する「おすすめコンテンツ」がハイライトされます。しかしこれらはあくまでも自動的なマッチングであり、入り口に過ぎません。活用を深めていただきたいのは、ページトップにある、お客さま専用にカスタマイズされた資料棚です。担当営業からここに届く提案は、当社のホームページなどに公開されていない個別の提案資料や技術ドキュメントなども含まれます。資料を見て、内容に興味を持っていただいた場合には、クイックコンタクトボタンを押すことにより素早く確実に担当者と連絡がとれます。近々このマイページには、チャットやテレビ会議を行える機能を追加する準備を進めており、物理的な時間制約を超え、また対面でのコミュニケーションを代替することが可能となります。

お客さまの業務効率向上と深いコミュニケーションを実現

このような仕組みを実現した「ZUKEN digital」がお客さまに提供できるベネフィットは、大きく二つ。一つは、システム管理者の方々に留まらず、実際に図研製品をご利用されている設計や製造部門の方々にも広く利用いただけるということです。営業と面会する時間や場所の制約を受けることなく、ご自身の課題を気軽に相談し、また必要な情報に直接アクセスできます。これにより、今までシステム管理者の方がとりまとめていた仕事の一部を、肩代わりできるかも知れません。

二つ目は、課題解決のための提案の質をレベルアップできるということです。「ZUKEN digital」上での営業とお客さまとのコミュニケーションは、すべてのデータベースに記録され可視化されます。その履歴をたどることで、どういったお客さまが、どのような課題を持ち、どのような資料・提案を提供すれば課題解決につながったのか、という道筋が見えてきます。これらを活用することで、提案をノウハウ化し、産業セクター毎に最適な提案ができます。その結果、いざ対面でのコミュニケーションに至ったときには、これまで以上に密度の濃い会話をお客さまとすることができ、無駄の無い検討を進めることができます。これは、お客さまにとっても図研にとっても大きなメリットです。

「ZUKEN digital」の提供により、お客さまとの対面でのコミュニケーションがなくなるわけではありません。当社は、これからも営業やSEが持つ勘や経験も大事にし、状況に応じて対面とdigitalをうまく使い分けることで、スピーディーで正確なお客さまとのコミュニケーション、エンゲージメントの向上を目指してまいります。

message　ビジネスSNSとして手放せない存在に

10月14～22日に開催した「ZUKEN digital SESSIONS 2020」を契機に、「ZUKEN digital」には2,000名以上の仮登録が行われ、現在、本登録移行に伴い、会員数は着実に増加しています。すでに「ZUKEN digital」上でのコミュニケーションが始まっており、モバイル対応も可能なことから、好評をいただいております。今後もより多くのお客さまにご利用いただけるよう、図研ならではのコンテンツの充実や、会員向けオンラインイベントの企画など、サイトの付加価値を高めてまいります。「ZUKEN digital」はお客さまが日々使うビジネスツールとして発展させていきますが、お客さま同士のコミュニティ基盤としても位置づけられるよう、業界のデファクトSNSとして成長させていきたいと考えています。

専務取締役 事業本部長
上野 泰生

ZUKEN digital　お客さま一人ひとりのニーズに合わせた双方向のコミュニケーションをデジタルで実現

「ZUKEN digital」マイページのイメージ

図研初のオンラインイベントを開催!
約2,300名が参加申込み。ライブ配信の同時視聴は最多600名以上

例年10月に多くの国内外の方にお集まりいただいている「Zuken Innovation World YOKOHAMA」は、本年は開催見送りとなりましたが、2020年10月14日(水)～10月22日(木)の9日間で、初のオンラインイベント「ZUKEN digital SESSIONS 2020」を開催しました。

お客さまの課題解決のヒントにつながるプログラムの提供を目的に、図研の最新事業戦略・技術戦略のご紹介から、お客さま事例、各製品の開発ロードマップ、新ソリューション企画等の講演をオンラインで配信しました。

日時限定配信では、当社の事業・開発ビジョンを2セッション、お客さまによる製品導入事例・技術トレンド等を10セッション、常時配信では、当社の製品開発ロードマップと新プロダクト企画を16セッション、技術パートナーによる発表を8セッション、全36のプログラムをご用意しました。

電気・電子機器や車載機器などモノづくり企業の設計者を中心に、2,300名を超える申込みがあり、日時限定の動画配信には最多600名以上のご視聴をいただき、盛況のうちに終了することができました。特に、これまでリアルイベントへの参加が難しかった現場の設計者の方々や地方のお客さまから多数の申込みをいただき、オンラインイベントの価値を再認識できたイベントとなりました。

図研は「ZUKEN digital SESSIONS」を、今回の開催だけでなく、お客さまとの新たなデジタル・エンゲージメントの一つとして、今後も継続・発展させていく計画です。

セッションの様子

[事業ビジョン]　製造業DXの実現に向けて
専務取締役 事業本部長　上野 泰生

[開発ビジョン]　図研エンジニアリングITソリューションの総合的ビジョンとロードマップ
専務取締役 技術本部長　仮屋 和浩

[製品開発ロードマップ]　E3.series, E3.series infinite ロードマップ
技術本部 A&M開発部 取締役部長　早乙女 幸一

開催概要

電気・電子設計にかかわる様々な最新技術トレンドや、それを踏まえた新しいエンジニアリングITの姿をお客さまの事例、図研製品の開発ロードマップ、新プロダクト企画、技術パートナーの発表を通じてお届けするオンラインイベント。

開催期間　2020年10月14日～10月22日
申込者数　約2,300名
WEB https://zuken-ds2020.event-info.com/

主なプログラム

※ 敬称略・講演順

<日時限定配信>

事例

- アルプスアルパイン
- 先進モビリティ
- セガ
- FUJI
- オンテック
- 小野測器
- シグマ
- アルティメイトテクノロジィズ
- パナソニック インダストリアルソリューションズ社

技術トレンド

- 東京工業大学 科学技術創成研究院　大場隆之特任教授

図研　事業・開発ビジョン

<常時配信>

- 図研講演　製品開発ロードマップ…… 9セッション
  新プロダクト企画 …… 7セッション
- 技術パートナー講演…… 8セッション

[技術トレンド]　微細化とバンプ接続に頼らない三次元大規模集積システム技術
東京工業大学 科学技術創成研究院 大場 隆之特任教授

イベントの最後には、視聴アンケートの回答者に様々なプレゼントが当たる「お楽しみ抽選会」も行われました。

欧州においてもオンラインイベント開催

図研の欧州拠点(ドイツ、イギリス、スイス、フランス、イタリア、ポーランド)においても、例年開催している「Zuken Innovation World」の開催を見送り、オンラインイベントを開催しました。

また、2020年6月と9月には、各国のオンラインイベントから厳選したコンテンツを集めたオンラインセミナー「ZIW Europe Digital 2020」を公開し、5カ国の言語で、電気・電子工学、産業領域をテーマに最新ソリューションを紹介する37の講演を配信しました。欧米拠点では、来年春の「Zuken Innovation World」の開催日を告知し、開催に向けた準備を進めています。

四半期連結財務諸表 （単位:千円）

四半期連結貸借対照表

資産の部

	当第2四半期 2020年9月30日現在	前第2四半期 2019年9月30日現在	前期 2020年3月31日現在
流動資産	**36,552,072**	**33,920,069**	**37,072,477**
現金及び預金	21,855,752	19,632,590	20,574,644
受取手形及び売掛金	3,937,219	4,260,924	6,407,981
有価証券	6,700,000	6,700,000	6,700,000
商品及び製品	406,197	365,396	403,944
仕掛品	428,810	282,730	264,482
原材料及び貯蔵品	7,876	3,014	1,862
その他	3,255,744	2,695,526	2,749,149
貸倒引当金	△ 39,529	△ 20,113	△ 29,587
固定資産	**15,910,025**	**14,520,586**	**14,373,415**
有形固定資産	6,285,315	6,314,046	6,376,656
建物及び構築物(純額)	2,775,147	2,812,792	2,849,901
土地	3,015,103	3,015,103	3,015,103
その他(純額)	495,064	486,151	511,651
無形固定資産	1,387,900	1,636,204	1,515,917
のれん	778,840	1,041,937	913,777
その他	609,060	594,267	602,140
投資その他の資産	8,236,809	6,570,335	6,480,840
資産合計	**52,462,098**	**48,440,655**	**51,445,892**

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

負債の部

	当第2四半期 2020年9月30日現在	前第2四半期 2019年9月30日現在	前期 2020年3月31日現在
流動負債	**10,778,539**	**9,748,648**	**12,019,959**
買掛金	730,186	663,223	1,177,418
未払法人税等	269,217	366,332	716,954
前受金	7,268,246	6,238,099	6,783,516
賞与引当金	905,633	877,567	902,008
その他の引当金	28,189	40,413	136,807
その他	1,577,065	1,563,012	2,303,253
固定負債	**5,037,242**	**4,198,248**	**4,412,625**
退職給付に係る負債	4,227,078	3,840,635	4,192,059
その他	810,164	357,613	220,565
負債合計	**15,815,782**	**13,946,896**	**16,432,584**

純資産の部

株主資本	**33,291,412**	**32,083,573**	**32,934,550**
資本金	10,117,065	10,117,065	10,117,065
資本剰余金	8,662,477	8,659,034	8,659,023
利益剰余金	14,529,129	13,324,033	14,175,240
自己株式	△ 17,259	△ 16,560	△ 16,778
その他の包括利益累計額	**3,036,635**	**1,986,223**	**1,648,949**
その他有価証券評価差額金	3,494,990	2,442,512	2,266,875
為替換算調整勘定	808	△ 142,487	△ 86,604
退職給付に係る調整累計額	△ 459,163	△ 313,801	△ 531,321
非支配株主持分	**318,268**	**423,962**	**429,808**
純資産合計	**36,646,316**	**34,493,759**	**35,013,308**
負債純資産合計	**52,462,098**	**48,440,655**	**51,445,892**

四半期連結損益計算書の要旨

	当第2四半期 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで	前第2四半期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで	前期 2019年4月 1日から 2020年3月31日まで
売上高	**13,071,338**	**13,705,971**	**29,296,353**
売上原価	**3,903,443**	**3,742,744**	**8,524,666**
売上総利益	**9,167,894**	**9,963,227**	**20,771,686**
販売費及び一般管理費	**8,201,826**	**8,184,443**	**17,380,445**
営業利益	**966,067**	**1,778,784**	**3,391,241**
営業外収益	**119,818**	**100,272**	**171,266**
営業外費用	**17,380**	**52,378**	**75,747**
経常利益	**1,068,505**	**1,826,677**	**3,486,759**
特別利益	**932**	**138,934**	**139,864**
特別損失	**302**	**2,678**	**7,246**
税金等調整前四半期(当期)純利益	**1,069,135**	**1,962,933**	**3,619,377**
法人税、住民税及び事業税	318,227	479,100	1,151,151
法人税等調整額	115,678	64,550	△133,618
法人税等合計	433,905	543,650	1,017,533
四半期(当期)純利益	**635,229**	**1,419,282**	**2,601,844**
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益又は純損失(△)	△ 67,402	215	6,076
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	**702,631**	**1,419,067**	**2,595,767**

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

	当第2四半期 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで	前第2四半期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで	前期 2019年4月 1日から 2020年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	**1,857,057**	**2,508,152**	**4,207,711**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△ 280,019**	**△ 626,816**	**△ 1,034,567**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△ 390,606**	**△ 456,123**	**△ 807,380**
現金及び現金同等物に係る換算差額	**97,652**	**△ 225,192**	**△ 196,708**
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	**1,284,085**	**1,200,020**	**2,169,055**
現金及び現金同等物の期首残高	**20,306,950**	**18,137,895**	**18,137,895**
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	**21,591,035**	**19,337,916**	**20,306,950**

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

ニューノーマルに対応した

図研グループ各社の注目のソリューションをご紹介!

図研テック　eZラーニング

これまで5,000名超のお客さまに受講いただいている「EMC設計教育」「熱設計教育」の実績に基づいたe-learningサービス。受講結果の報告会や個別相談会などのオフラインイベントも併せて提供することで、受講定着の促進、管理者の負荷を軽減などのe-learning導入の課題をカバーしています。

図研ネットウエイブ　Verint NowForce

リモートワーク中の社員の安全・健康管理を支援する感染症対策支援ソリューション。社員はスマートフォンアプリから健康状態や移動履歴等を報告でき、管理側はリアルタイムで全社員の状態把握することができます。クラウド型で大規模なシステム改修なく導入可能。

図研エルミック　FA Finder

製造、物流、医療などの現場でニーズが高まる監視カメラ等の映像情報を活用した、省力化・自動化システムの構築を支援する映像連携プラットフォーム。IoTデバイスやユーザの既存設備(FA機器)とカメラ映像を紐付け相互連携を可能にします。

図研プリサイト Knowledge Explorer

企業内の文書群の中から、AIが参考文書を自動で検索しお知らせするという新しい形のナレッジマネジメントシステム。人づての情報共有が見直され始めたポストコロナにおいて、「自分で情報を探す」から「有益な情報に気付かせる」ことで、埋もれた情報資産の利用を活性化する手段としても大いに活用できます。

図研モデリンクス　シミュレーション活用、モデルベース開発の技術コンサルティング

リモートワークが推奨される中、従来の試作を繰り返すモノづくりからの脱却をすべく、シミュレーション活用やモデルベース開発の取組みが求められています。図研モデリンクスは豊富な実務経験により、メカ・エレキ・ソフトの総合的な技術コンサルティングサービスを提供します。

特設サイト「ZUKEN DX」を公開

図研グループ各社が提案する、お客さまのDX(デジタルトランスフォーメーション)を支援するソリューション紹介のほか、不確実性が増す時代において製造業に必要とされる「ダイナミック・ケイパビリティ(企業変革力)」について取り上げた座談会記事や図研自身のDXの取組みも紹介しています。

https://www.zuken.co.jp/dx/

会社情報 (2020年9月30日現在)

社名	株式会社図研　ZUKEN Inc.
設立	1976(昭和51)年12月17日
資本金	101億1,706万5千円
株式市場	東京証券取引所第一部
従業員数	426名　連結1,447名
平均年齢	43.6歳
URL	https://www.zuken.co.jp/

本社・中央研究所

役員

代表取締役会長	金子 真人
代表取締役社長	勝部 迅也
取締役副社長	相馬 粛一
専務取締役	仮屋 和浩
専務取締役	上野 泰生
取締役	大澤 岳夫
取締役	早乙女 幸一
取締役	藤原 宏行
取締役※	佐野 高志
取締役※	荒井 洋一
監査役(常勤)	和田 扶佐夫
監査役※	半田 高史
監査役※	前波 吉伸

※は社外取締役および社外監査役です。

関係会社

図研テック株式会社
図研ネットウエイブ株式会社
図研エルミック株式会社
株式会社図研プリサイト
株式会社ダイバーシンク
図研アルファテック株式会社
図研モデリンクス株式会社

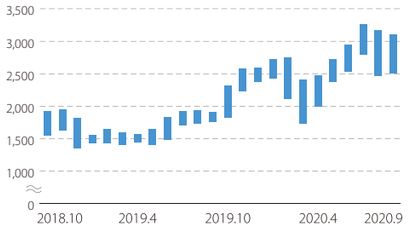
Zuken GmbH ほか7社
Zuken USA Inc.
Zuken Vitech Inc.
Zuken Korea Inc.
Zuken Singapore Pte. Ltd.
Zuken Taiwan Inc.
Zuken India Pte. Limited
図研上海技術開発有限公司

株主情報 (2020年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	86,525,700株
発行済株式総数	23,267,169株
株主数	8,653名

株価推移 (円)



大株主 (上位10名)

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
金子真人	4,500	19.35
金子真人ホールディングス株式会社	3,240	13.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,179	5.07
GOLDMAN SACHS & CO. REG	880	3.78
日本生命保険相互会社	723	3.11
和田扶佐夫	690	2.97
金子みね子	580	2.49
JP MORGAN CHASE BANK 385632	514	2.21
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	477	2.05
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE HCR00	314	1.35

注: 持株比率は自己株式(17,855株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権　毎年3月31日 期末配当　毎年3月31日 中間配当　毎年9月30日
公告方法	電子公告 (当社ホームページ https://www.zuken.co.jp/e-koukoku/) なお、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
1単元の株式の数	100株
証券コード	6947
株主名簿管理人 および口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同郵便物送付先	〒137-8081　新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
同連絡先	0120-232-711

住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について

口座をお持ちの証券会社にお申出ください。なお、特別口座で株式が管理されている株主の方は、口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

株式会社 図研　https://www.zuken.co.jp/

本社・中央研究所	〒224-8585 横浜市都筑区荏田東2-25-1	TEL: 045-942-1511(代)
センター南ビル	〒224-8580 横浜市都筑区茅ケ崎中央32-11	TEL: 045-942-1300(代)
新横浜ビル	〒222-8505 横浜市港北区新横浜3-1-1	TEL: 045-473-6868(代)
関西支社	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-2-28 堂島アクシスビル	TEL: 06-6343-1141(代)
名古屋支社	〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-23-20 HF桜通ビルディング	TEL: 052-950-3671(代)

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C017928
www.fsc.org

VEGETABLE OIL INK

この報告書は、環境に優しい植物油系インキを使用して印刷しています。